

第2章

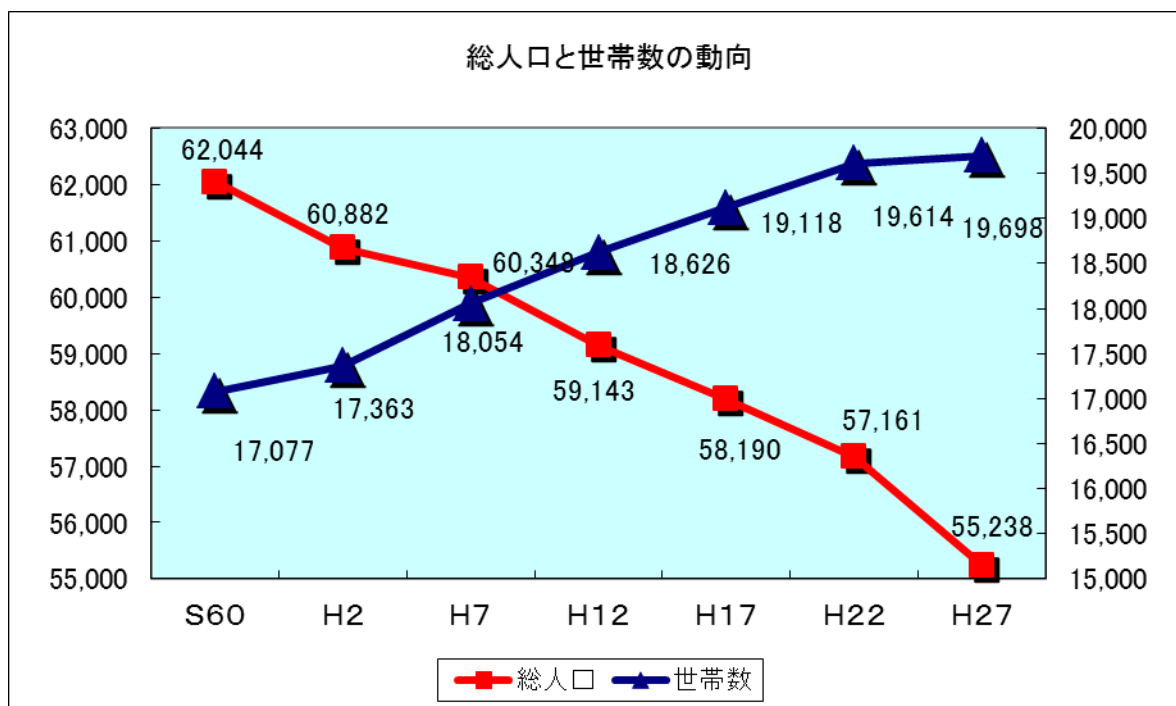
地域福祉を取り巻く 現状と課題

第2章 地域福祉を取り巻く現状と課題

1. 人口、世帯等の状況

本市の地域福祉を取り巻く現状と課題を把握するためには、人口、世帯数をはじめとした統計的なデータを把握しておく必要があります。以下、地域福祉に関連が深いと思われる統計データについて、グラフにより示します。

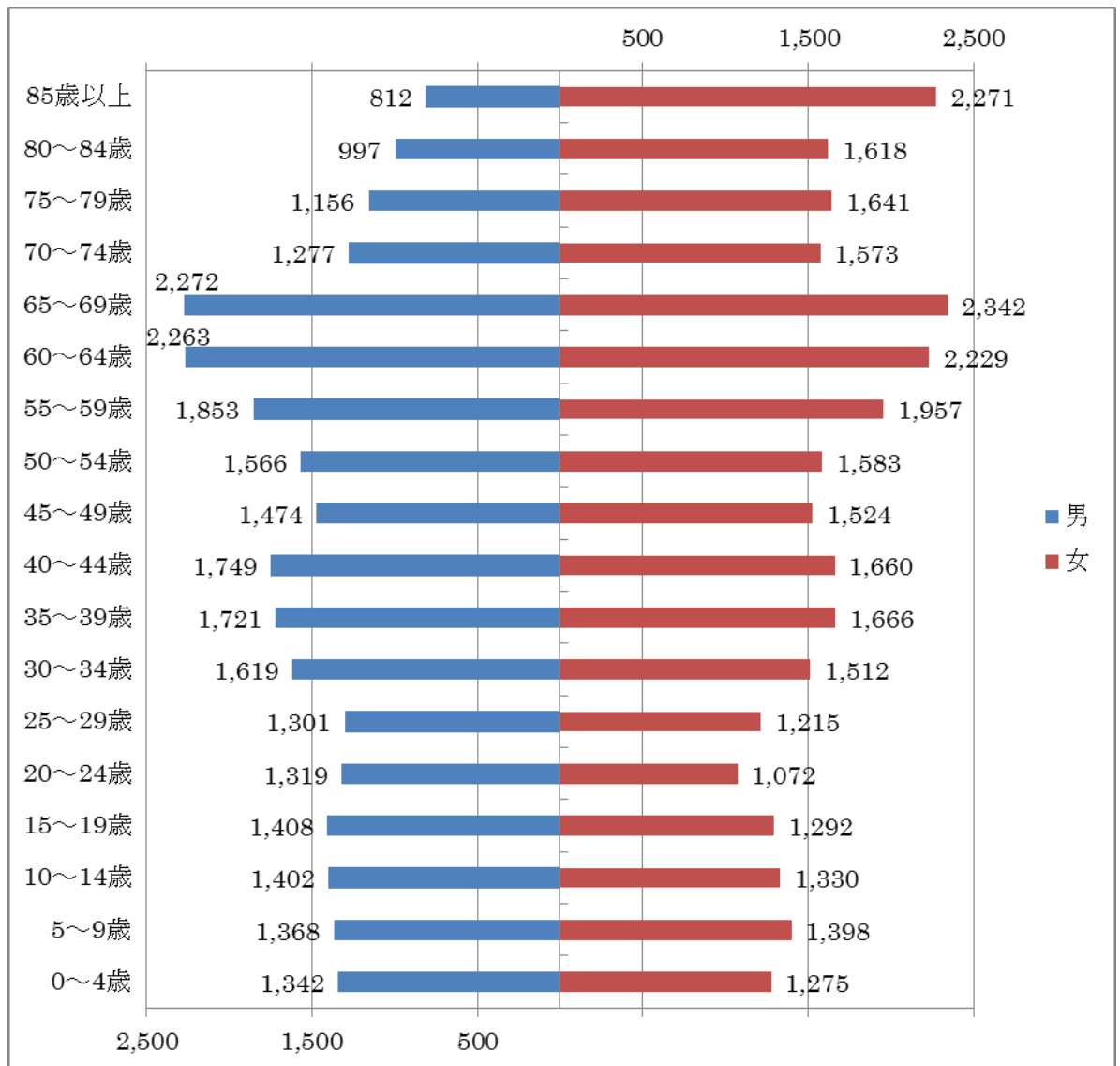
○総人口と世帯数の推移



(資料：国勢調査)

総人口と世帯数について、人口は昭和60年ごろから減少を続けています。しかし、世帯数は一貫して増加している傾向にあり、これは、核家族化がより一層進んでいることや単身世帯の増加が一因と考えられます。

○性別・年齢別人口構成（平成28年4月1日現在）

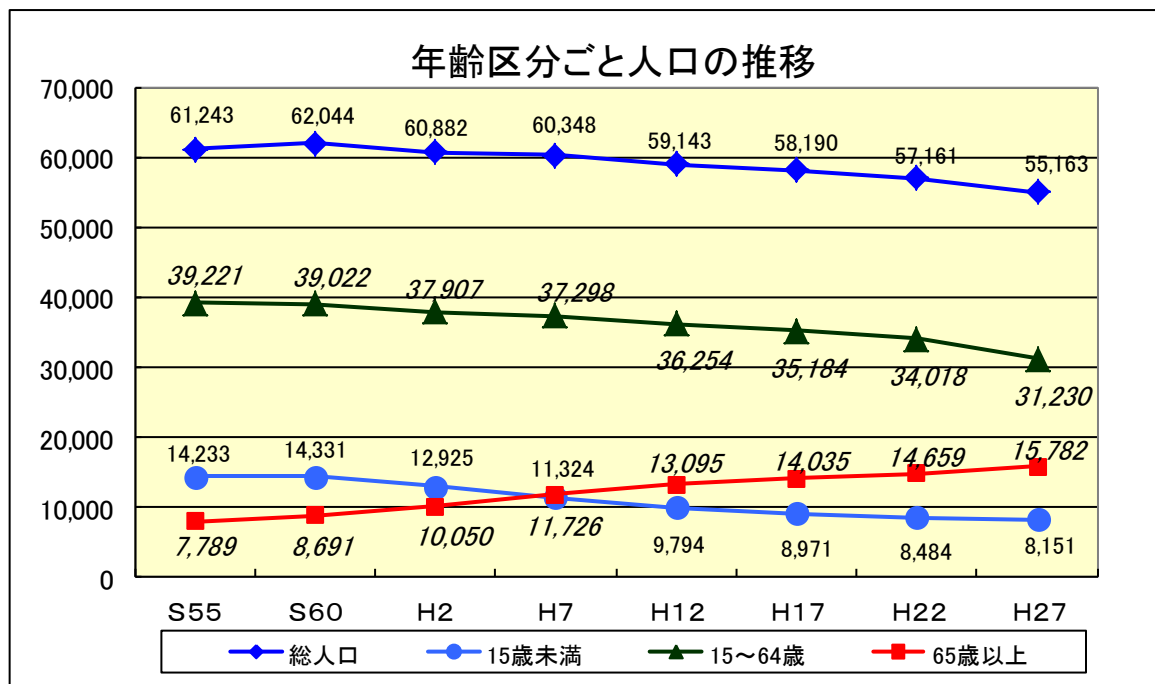


平成28年4月1日時点の本市の総人口は、56,057人となっていますが、このうち65歳以上の高齢者人口は15,959人であり、総人口に占める高齢者の割合は28.4%と高い割合を占めています。

また、60歳～69歳のいわゆる「団塊の世代」を含む人口が突出して多いことがわかります。70歳以上の人口が急激に減少しており、85歳以上になると、男女の人口に大きな差が出ていることが分かります。

さらに、19歳以下の人口はわずかな増減があるものの増加傾向にあるとは言えず、少子化に歯止めがかかっていないことが示されています。

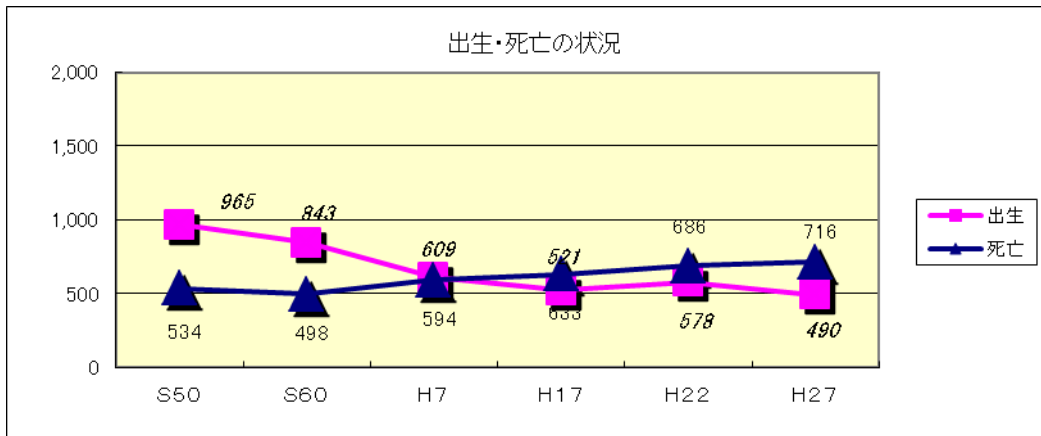
○人口（年齢区分ごと）の推移



(資料: 国勢調査)

昭和55年から平成22年までの30年間の年齢区分ごとの人口の推移をみると、65歳未満全体の人口は一貫して減少しており、特に15歳未満の人口の減少が顕著です。逆に65歳以上の人口は増加し続けており、平成7年を境に、15歳未満の人口が、65歳以上の人口を下回っています。このグラフからも、少子高齢化が進行している状況がわかります。なお、この傾向は今後も続くことが予測され、さらに人口の減少とともに、少子高齢化が進行することが予測されています。

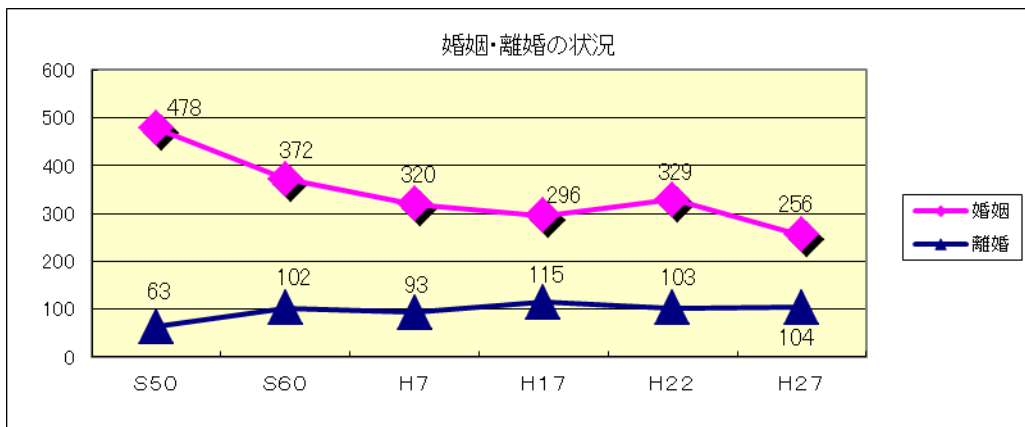
○出生数、死亡者数の推移



(資料：住民基本台帳)

昭和50年に965人であった出生数は、平成7年には死亡数とほぼ同数になり、以降は死亡数を下回っています。平成22年には578人と若干増加していますが、それでも昭和60年の843人と比べると、約3割も減少しています。平成27年には、出生数は500人を切り、このことから、ますます人口の自然減が進んでいる状況がわかります。

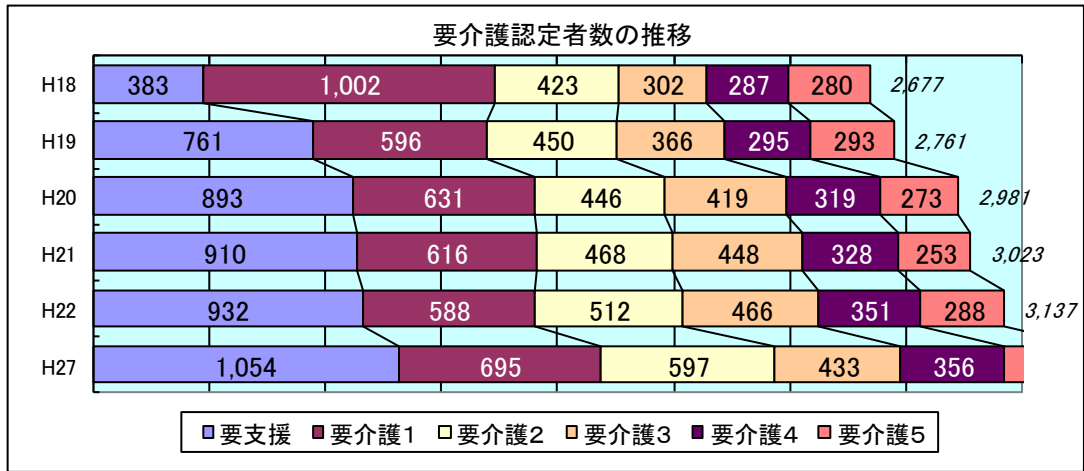
○結婚数、離婚数の推移



(資料：住民基本台帳)

昭和50年に478件であった婚姻数が、平成22年には329件と減少する一方、離婚数は63件から103件と約1.6倍に増加しています。平成22年には婚姻数が増加していますが、平成27年には256件と、やはり減少している状況です。離婚数は、10年前の平成22年よりわずかに減少しており、数としては大きな変化は見られません。

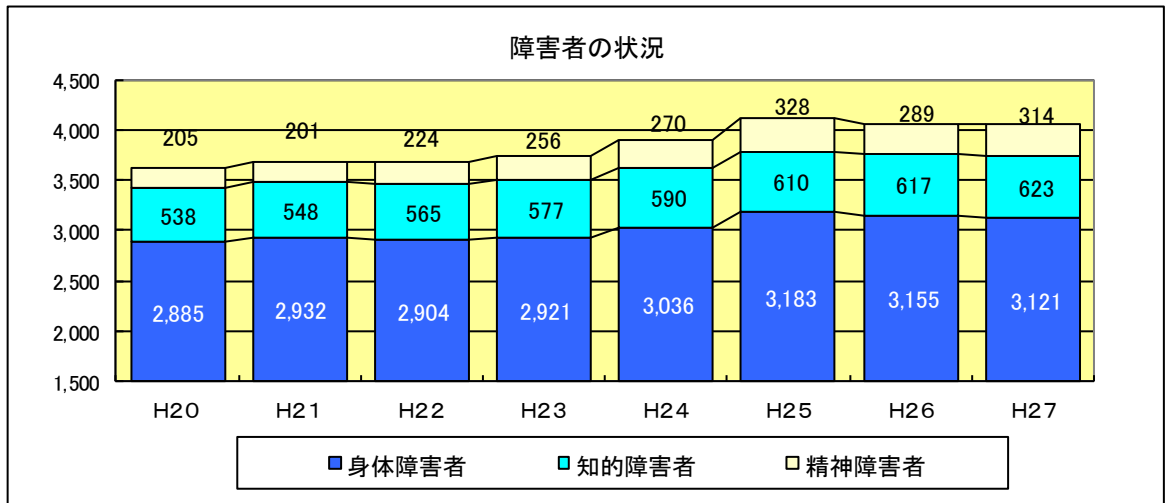
○要介護認定者数の推移



(資料：長寿社会課調べ)

要介護認定者数は全体的に増加傾向にあり、平成18年から平成27年の10年間での比較では約1.3倍となっています。これを要介護度別にみると、要支援の数がこの10年で約3倍になっており、平成27年の認定者の3分の1を占めています。

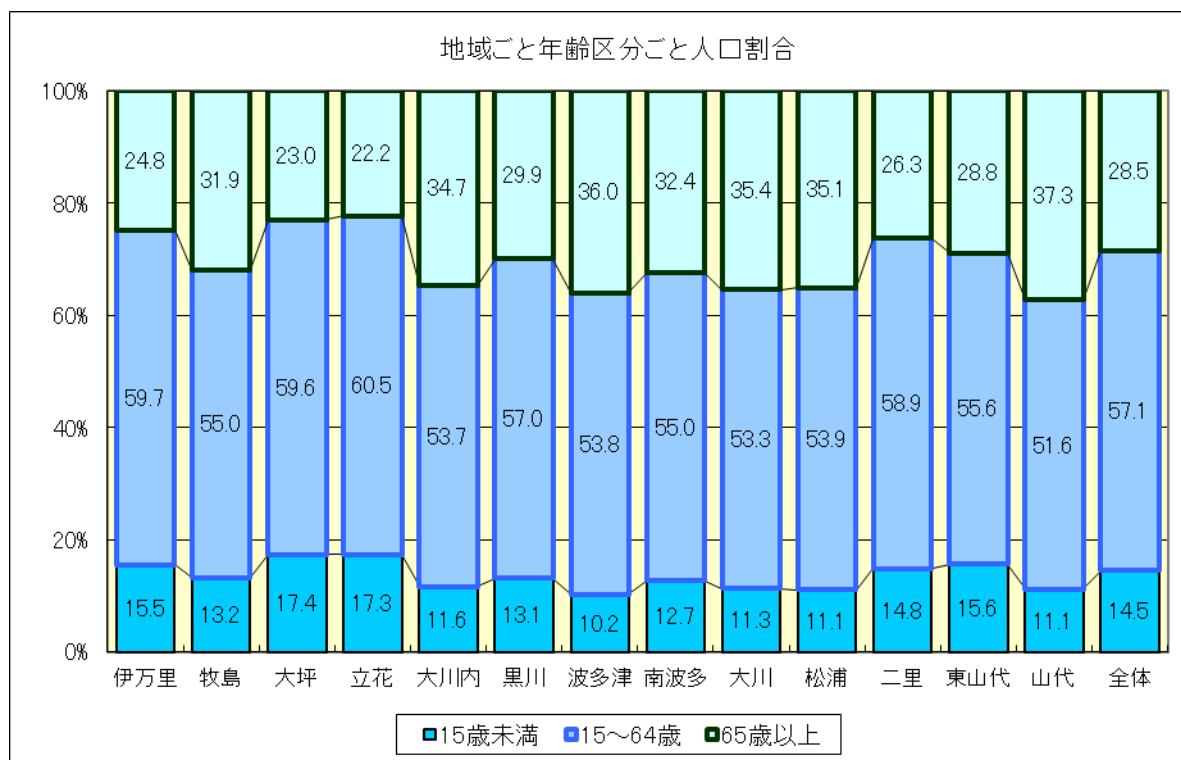
○障害者数の推移



(資料：福祉課調べ)

障害の種別で見ると、身体障害者数（身体障害者手帳交付数）、知的障害者数（療育手帳交付数）、精神障害者数（精神保健福祉手帳交付数）ともに若干の増減はありますが、全体として増加傾向にあることがわかります。

○地域ごとの年齢区分ごと人口割合（平成28年4月1日現在）



(資料：住民基本台帳)

各地区のグラフを市全体のグラフと見比べると、牧島、大川内、波多津、南波多、大川、松浦、山代地区が、高齢者の占める割合が30%以上と高く、子どもの占める割合が低い状況にあり、市内でも特に少子高齢化が進んでいる地区であるということがわかります。

2. 福祉に関する社会資源の状況

本市に所在する福祉にかかる施設等の状況は、以下のとおりです。

○高齢者にかかる施設（平成28年4月現在）

- ・特別養護老人ホーム：3
- ・老人保健施設：2
- ・介護療養型医療施設：7
- ・指定居宅介護支援事業者：22
- ・居宅介護サービス事業者：92（うちグループホーム：10）
- ・地域包括支援センター：1
- ・老人福祉センター：1
- ・老人憩の家：3

○障害者(児)にかかる施設（平成28年4月現在）

- ・居宅介護事業：7
- ・ショートステイ：1
- ・相談支援事業：4
- ・日中活動事業所：17
- ・障害者支援施設：1
- ・障害者グループホーム：5
- ・福祉ホーム：1（旧ケアホーム含む）
- ・障害者生活支援センター：1
- ・特別支援学校：1

○保健医療にかかる施設（平成28年4月現在）

- ・公立病院：1
- ・私立病院：9
- ・保健福祉事務所：1
- ・保健センター：1
- ・休日・夜間急患医療センター：1
- ・看護学校：1

○子どもにかかる施設（平成28年4月現在）

- ・保育園：23
- ・幼稚園：4
- ・認定こども園：1
- ・小規模保育事業所：6
- ・留守家庭児童クラブ：20
- ・児童遊園：3
- ・小学校：16
- ・中学校：8
- ・高等学校：4
- ・子育て支援センター：1
- ・母子生活支援施設：1
- ・児童センター：1
- ・青少年センター：1
- ・学校適応指導教室：1

○市民活動にかかる施設（平成28年4月現在）

- ・市民センター：1
- ・市民会館：1
- ・生涯学習センター：1
- ・市民図書館：1
- ・地区公民館：13
- ・隣保館：1
- ・自治公民館：172

※施設の詳細については資料のP130～141をご参照ください。

○ボランティア団体（平成28年4月現在）

- ・社会福祉協議会協議会登録数：105

※ボランティア団体等の詳細については、資料編のP142～146をご参照ください。

3. 地域福祉計画に関する市民アンケート調査結果の概要

平成28年度に実施した市民アンケートの調査結果については、次のとおりです。

市民アンケート概要

概要：無作為に抽出した335名と策定委員会の構成団体の会員等の665名をあわせた合計1,000名の市民を対象にアンケートを行った。

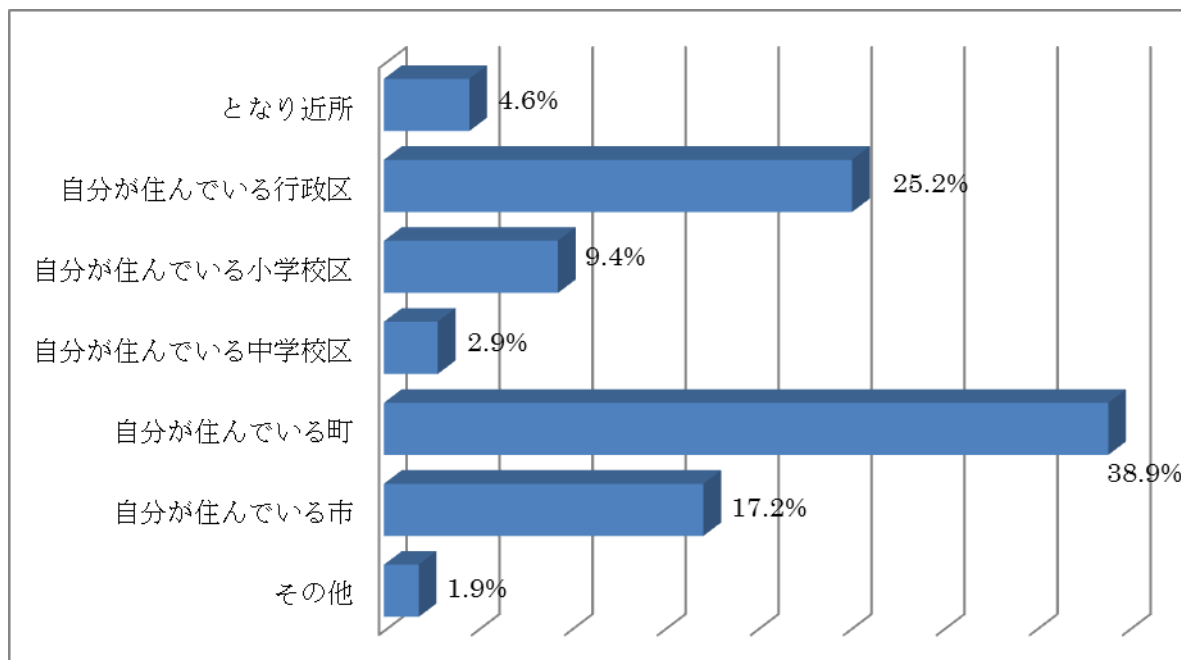
期間：平成28年10月～11月

回答者数：591名（回答率59.1%）

回答者のデータ（未回答含む）

性別	男性：239名	女性：352名				
年齢	19歳以下	84人	20～29歳	43人		
	30～39歳	150人	40～49歳	136人		
	50～59歳	51人	60～69歳	41人		
	70歳以上	86人				
	職業	自営業、専門職等	86人	会社員等	315人	
	学生	82人	無職等	106人		
家族構成	ひとり暮らし	17人	夫婦のみ	54人、		
	2世代同居	252人	3世代同居	214人、		
	その他	52人				
地区	伊万里	64人	大坪	57人	大川内	28人
	牧島	31人	立花	52人	黒川	41人
	波多津	37人	二里	53人	東山代	61人
	山代	46人	松浦	33人	南波多	44人
	大川	42人				

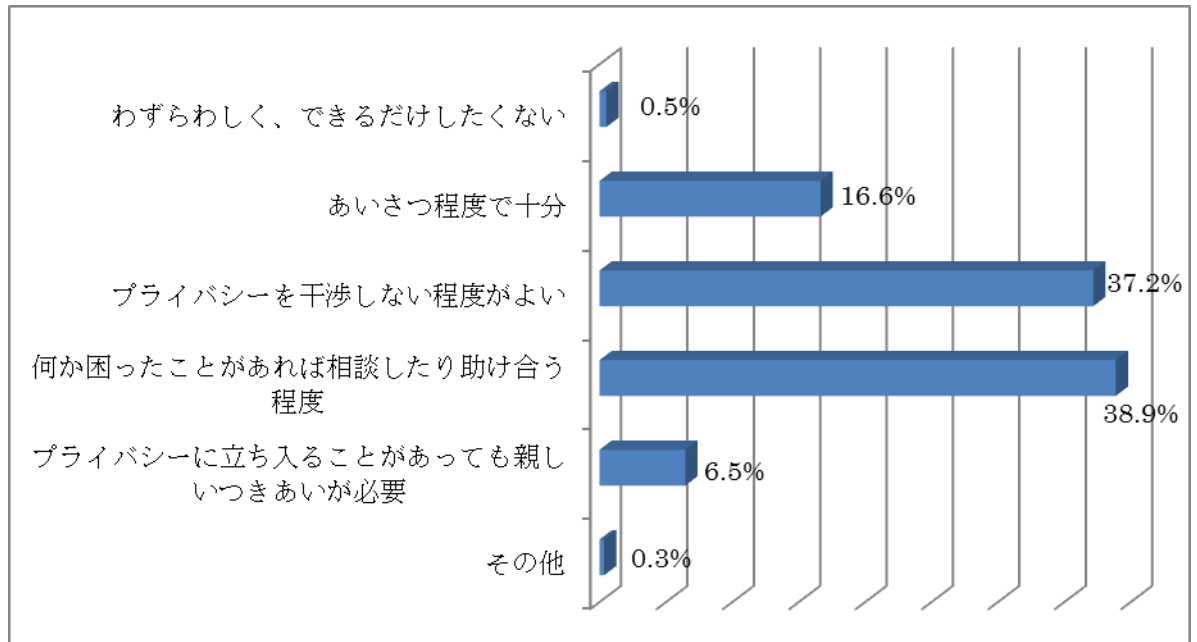
「自分の地域」と感じているのはどの範囲ですか？



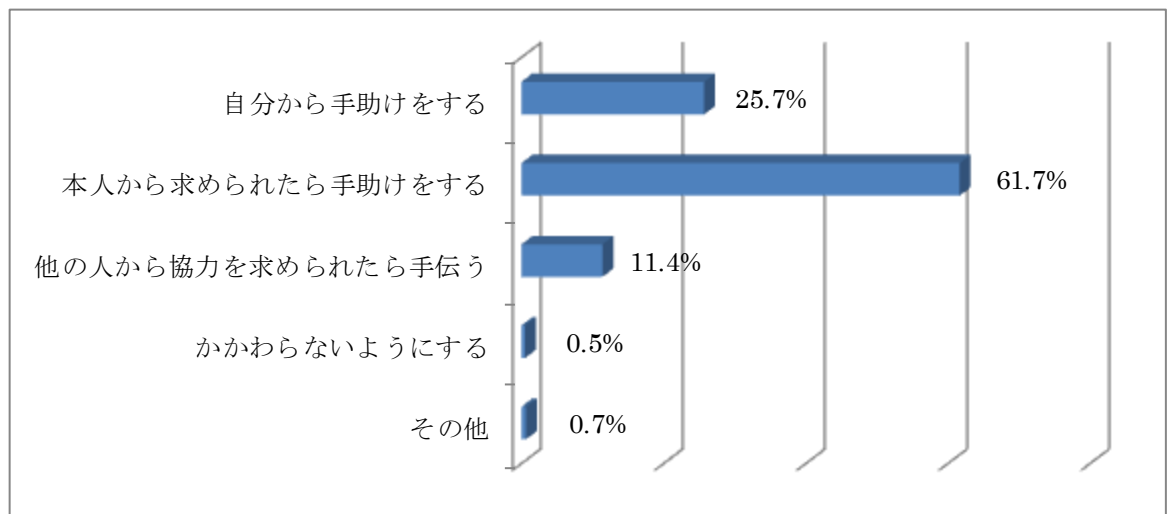
前回に比べ、自分の地域と感じている範囲を、「市」ととらえている人が増えている。反対に、「行政区」と感じている人は減っており、職場や学校などの通勤や通学の範囲が以前に比べて広域化しているのではないかと推測される。

全体では、自分の住んでいる町という回答が一番多く、地域福祉活動をすすめるにあたっては、市内13地区公民館のエリアである「町」を中心に考える必要がある。地区社会福祉協議会も市内13地区（町）で設立され、その活動拠点は地区公民館が担っていることから、今後も地域福祉活動の推進にあたっては、地区公民館の役割がますます重要になると考えられる。

近所づきあいについて、あなたの考えに近いものは？



隣近所で困っている人がいたらどうしますか？

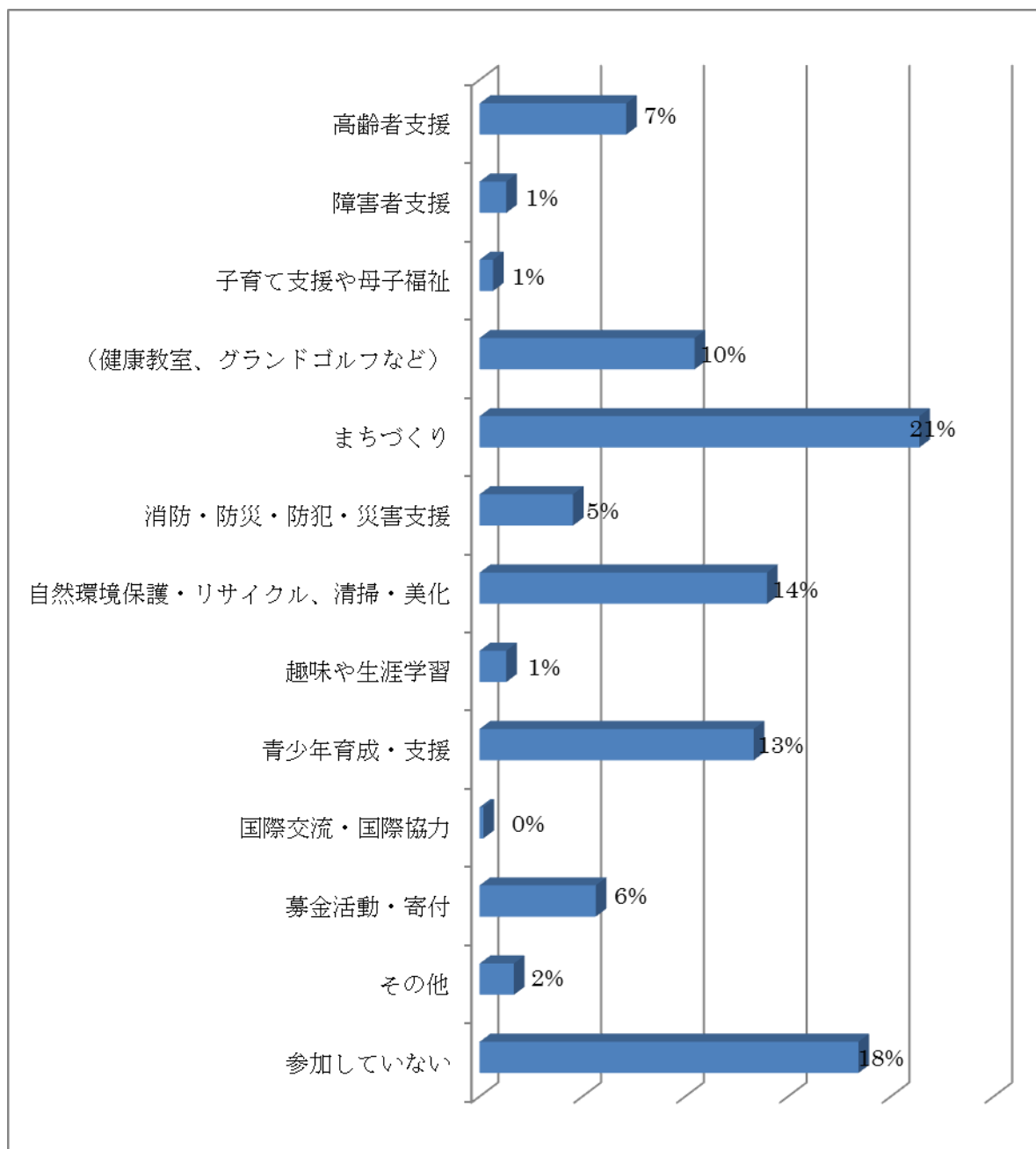


近所づきあいについては、「プライバシーを干渉しない程度がよい」「何か困ったことがあれば相談したり助け合う程度」が多く、近所の人とは、距離感を持ってつきあっている人が増えていると考えられる。

その一方で、隣り近所で困っている人に対しては、ほとんどの人が手助けをすると回答しており、お互いに助け合うという意識がある事が伺える。

今後、災害等が発生した場合には、隣近所で互いに助け合うことが重要になってくると思われるため、日頃から近所のつながりを意識的に持つことや、近所づきあいについて考えてみることも必要と思われる。

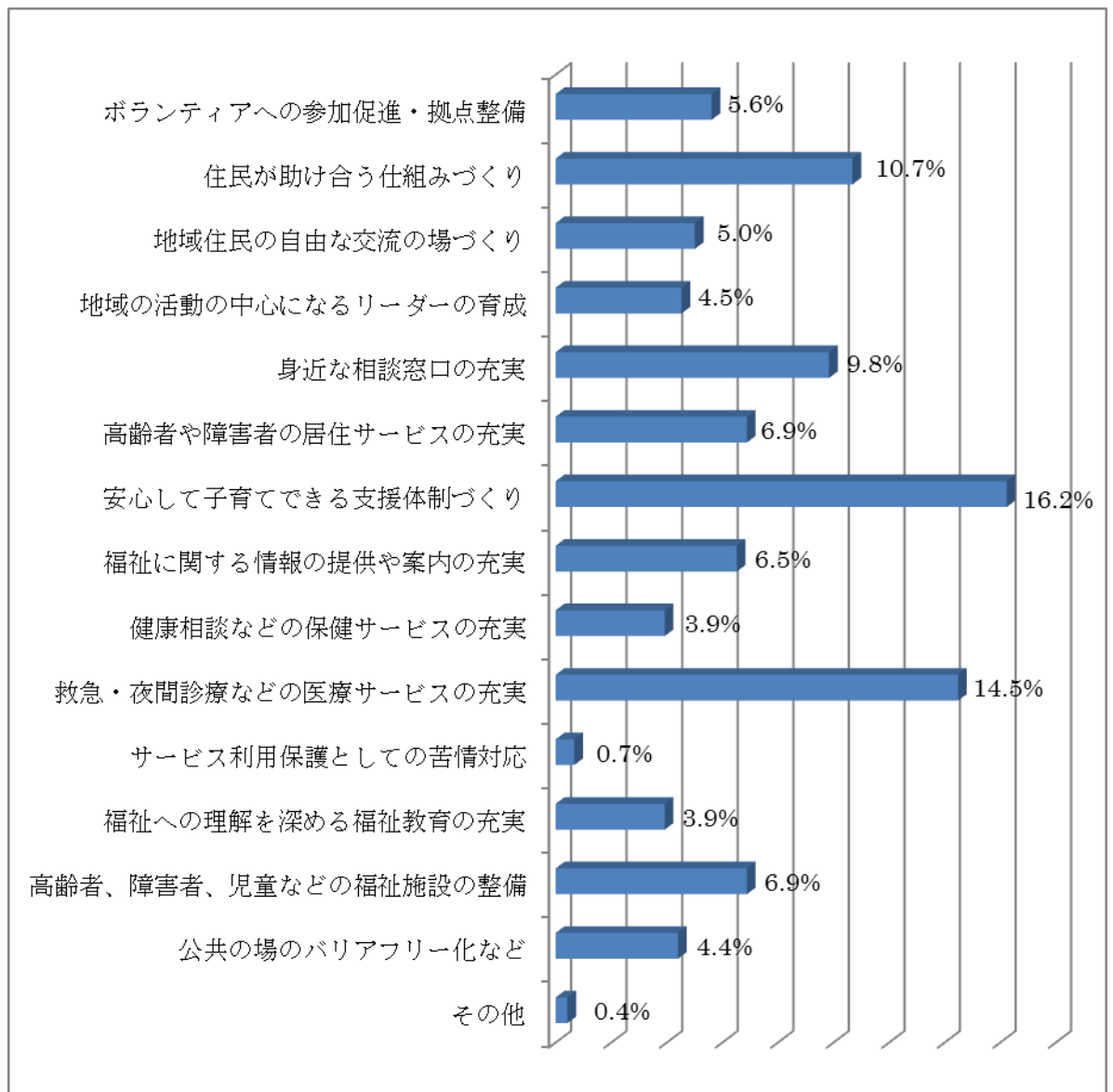
地域のどのような活動に参加していますか？



地域の活動については、まちづくり活動や清掃・美化活動、また、青少年育成・支援や健康づくり・スポーツなど、多数の市民が参加していることが分かる。ただ、活動に参加していない市民の数もまだ多く見受けられる。

また、地域の活動を推進していくためには、「住民が自主的に参加し、活動しやすい組織を地域に整備すること」「住民が地域活動に参加したいときに、気軽に相談できる窓口があること」が求められており、今後の地域活動を推進する上では、世代や性別などにかかわらず、できるだけ多くの地域住民の参加を求めやすい形で行うこと、また相談しやすい窓口や活動体制をとることに留意する必要がある。

伊万里市は今後、何に力をいれるべきだと思いますか？



伊万里市が、福祉の充実した「住みよいまち」になるためには、まず「救急や夜間診療などの医療サービスの充実」に力を入れることが求められている。これは市民の悩みや不安についての設問において、上位を「家族の健康」「自分の健康」が占めていることから充分理解できる。また、「住民が助け合う仕組みづくり」や「身近な相談窓口の充実」も多数求められており、健康上の不安を取り除くと同時に、市民の福祉ニーズに対する身近な地域でのきめ細かい対応が求められていると考えられる。「安心して子育てできる支援体制づくり」の意見も多数寄せられており、今後の子育て支援の充実に対する期待も大きいことが分かる。

4. 地域福祉を取り巻く課題

○市民アンケート自由意見等のまとめ

市民アンケートでの自由意見に基づき、基本目標ごとに課題を整理しました。

1. みんなが利用しやすい福祉サービスの確保

(相談窓口の充実、情報の提供体制、サービスの確保、見守りの仕組み)

- ・仕事を持った人が親の介護をする中で、サービスの内容など相談しやすい環境にしてほしい。
- ・福祉について各年齢に応じたアドバイスや参考記事等を広報に載せてほしい。
- ・高齢者社会となり、介護サービスや介護施設の充実が必要だと感じています。
- ・他の市町村と比較しても良いほうだと感じております。
- ・住民に身近な地域においては、高齢者及び障害者福祉を中心に市町村が地域の特性に応じた福祉の充実に取り組んでもらいたいです。
- ・今後、老々介護、貧困の問題などたくさん問題が増えていくと思います。
- ・公民館の使用料の問題など、市民の自主的な活動を支援するのも福祉です。

⇒高齢化社会に対する不安もあり、介護サービスや高齢者を支援する制度の充実を求める意見が多くありました。また、福祉に関する内容では、制度が分かりにくい、相談窓口をもっと充実してほしい、必要なサービスがない、などの意見が多くありました。地域でのニーズを把握するための努力が必要、各地区の状況などを聞いてほしい、といった声もありました。

2. みんなで参加する地域福祉活動の充実

(情報発信の場づくり、参加する機会づくり、人材の育成、地域のニーズの把握)

- ・もっと障害がある方とのふれあいの場があればいいと思う。
- ・市民が気軽に立ち寄り、雑談やお茶が飲める場所がほしいと思います。
- ・ボランティア活動をされている方の気持ち、行動に感動する。
- ・民生委員の改選時に要員を確保するのが大変である。
- ・老人会で「百歳体操」を取り入れ、大変好評である。会の役員もやりがいを感じています。
- ・公共の運動施設でも車いすの利用ができるようになっていない所がある。障害者スポーツができる環境になってほしい。(テニス、バスケット)

- ・子どもが参加できるボランティアの窓口が知りたい。子どもに思いやりを持ってもらいたいので、ボランティアをして心を育てたいと思っている。

⇒福祉に興味や関心はあるが、参加する方法や窓口が分からない、という意見が多くありました。地域によって差はあるものの、参加しやすい行事や地域のイベントには積極的に参加したいという意見もありました。また地区の役員を決める時には苦勞している、地域福祉の活動への理解がないと福祉の充実は難しい、などの意見がありました。

3. みんなで福祉について考える雰囲気づくり

(福祉教育の推進、身近な福祉課題の気づき)

- ・今は子育てに追われているが、子育てが終われば親の介護があります。福祉についてもっと知っていく事が必要。周囲の人とこういう気持ちを共有して いけば不安解消になると思います。
- ・小中学校で地域福祉について勉強していく事も必要だと思います。
- ・地域の福祉について、あまり関わる事がなく、どのような活動をされているか知らなかった。もっと福祉について考えようと思った。
- ・今の自分が特に悩んでいる事はないが、いつ何があるかわからないので、真剣に考えるチャンスをもたらしたように思います。
- ・今の社会は、近隣への関心が少なく、孤立している人が多いような気がします。プライバシーの問題もありどこまでお世話していいのか、どのあたりまで踏み込んで心配すればいいのか、かなり難しいところもあります。そこで住民が助け合うことのできる仕組みづくりが非常に大切になってくるのではないのでしょうか。安心して暮らせる社会に周りのみんなですていきましよう。

⇒今は特に心配な事がなくても、先の不安は誰もが抱えているので、今のうちにみんなで考えることが大切だという意見が多くありました。また、福祉のサービスは本当に必要な人が受けるべきだという意見もありました。学生なので今は福祉の制度が分かりづらく、もっと学校などへ情報を提供してほしいとの声がありました。

4. みんなが安心して暮らすことができる地域づくり

(医療・福祉の充実、防犯・防災体制の整備、地域の助けあい、少子化対策)

- ・小さい子どもの夜間、救急の医療のサービスが行き届いていないのが一番辛い問題です。
- ・交通手段が不便なので、高齢者への気配りが足りていないと実感しています。
- ・高齢者が歩きやすい道路にしてほしい。
- ・個人情報の問題もあるが、地域において自分が協力したいと思っても何を誰のためにどうしたらいいのか全く見えてこない。防災面も含めて、いざという時のためにどのように対応すべきか、体制づくりを充実させることが必要です。

⇒子育て世代から最も多く出された意見は、夜間、小児救急診療体制への不満でした。また子育てがしやすい伊万里であってほしいとの意見も多くありました。その他に、地域のつながりはとても素晴らしいが、買い物や医療体制については、不便なところが多い、など良い面と悪い面両方の意見がありました。